

全国よい仕事研究交流会2019 ①

本号は2019年3月2-3日に駒澤大学で開催した「全国よい仕事研究交流会2019 -社会をつくるよい仕事-はたらく・くらす・しあわせの円環づくりへ」の全体会を特集しました。

駒澤大学で2日間集会を開催できた背景には、協同総研理事である松本典子さんのご協力、ご尽力がありました。ありがとうございました。

全体会は509名の参加となり、日本労協連に加盟する会員組織や2日目の分散会コメントーター、労働者協同組合で運営する施設の利用者、一般参加の方々もいました。

全国よい仕事研究交流会は1989年から行い、途中、事業分野ごとの集会が行われ、今のような形で行うようになったのは2010年からとなり、今回で13回目を迎えます。全国よい仕事研究交流会は、ワーカーズコープの実践を振り返りながらその意味することを研究し、全国の実践の学びを交流する目的で開催されていますが、社会状況やワーカーズコープの実践の進捗にあったテーマを開催ごとに設定しています。

本集会も含めて、直近6年間の集会テーマ、主な登壇者は以下の通りです。

年	集会テーマ	主な登壇者
2014	協同労働の「よい仕事おこし運動」を職場から地域へ -人が育ち・学び・つながる・地域がつながり、みんなで支え合う本物の豊かさを、自分たちで作ります、地域の文化と仕事の創造へ-	・天童荒太 ・中村桂子
2015	はたらくことは人を命につなぐもの 社会的孤立と排除に抗し、「ともに生きる」地域をつくる-自らの果たすべき役割を問う-	・山崎史郎・佐藤博 ・丹羽健司・向谷地生良
2016	市民の手、市民の主体的力による新しい地域、新しい社会づくりは可能か 協同労働・社会連帯による地域からの新しい生活・文化運動の創造へ	・佐伯康人・山崎史郎 ・大高研道・板持周治
2017	市民自らが地域・社会をつくる時代を切り拓く-社会連帯経営の深化が「よい仕事」の全面的発展を促す	・関野吉晴・大高研道 ・伊藤勲
2018	協同労働が法制化される時代、いのちと社会に向き合う協同労働・よい仕事とはなにか、その深化・発展のプロセスをみんなで考える	・内山節・大高研道 ・森康行
2019	社会をつくるよい仕事-はたらく・くらす・しあわせの円環づくりへ-	・平田オリザ・大田堯 ・宮崎隆志

テーマ設定では、「よい仕事」「協同労働」を中心に置きながら、この6年間で一貫しているキーワードとして「つながり」「いのち」「社会づくり」「地域づくり」「市民がつくる」があります。そして今年は上記の内容に加え、「くらす」と「しあわせ」を

入れています。これは、ワーカーズコープで働くことだけではなく、多様な暮らすことや幸福観も視野に入れて考えるといった「生き方」に焦点を当てたところに今年の集会の特徴があると考えています。2018年に「君たちはどう生きるか」(吉野源三郎著)が200万冊(文庫・マンガ)を超えるなかで、一人ひとりの「生き方」から、はたらく・くらす・しあわせを考える大きなきっかけとなった集会になりました。

今年のよい仕事研究交流集会での全体会での学びのキーワードは「折り合いをつける」「対話する」「『みんな違ってみんないい』ではなく、みんな違って大変だ」「(協同労働が)腑に落ちる」等がありました。これは記念企画で話された平田オリザさん、ワーカーズコープ運動を応援していただいた故大田堯さんのDVD上映、現場の実践を協同労働の視点から深めたパネルディスカッション、そしてこたつとみかんで日常の組合員の様子を表現した「座談会」などを行ないながら、集会参加者の感想文で多く触れられていたキーワードでした。

そして問いとして出たことは、「協同労働とはなにか」「どのようなときに協同労働が腑に落ちるのか」「よい仕事とはなにか」などがありました。毎年「よい仕事とは何か」「協同労働とはなにか」の問いは出されますが、協同労働が腑に落ちる瞬間という問題意識は、今回の座談会で話されたことが大きかったように感じます。

労働者協同組合法の制定が間近に迫るなかで、日本の労働者協同組合、協同労働の協同組合として、「協同労働」の組織的性格を実践の実感から言葉として表現したものを広げていくことが、協同総研の1つの役割であると考えています。その意味でも協同労働の実践と研究が結びつく場であります全国よい仕事研究交流集会は貴重な場であり、本集会の学びを労協連の会員組織の皆さんの職場での学習資料として活用いただければと考えています。

(協同総合研究所 事務局長 相良 孝雄)



こたつ座談会 全景



全体会でのグループ討論